



Japan Semiconductor

# SUSTAINABILITY REPORT

# 2025



## 株式会社ジャパンセミコンダクター

|         | 岩手事業所                      | 大分事業所                | 川崎分室                                       |
|---------|----------------------------|----------------------|--------------------------------------------|
| 代 表 者   | 取締役社長 菅原 毅                 |                      |                                            |
|         | 事業所長 佐藤 倫行                 | 事業所長 北村 徳秀           | —                                          |
| 所 在 地   | 岩手県北上市北工業団地<br>6番6号        | 大分県大分市大字松岡<br>3500番地 | 神奈川県川崎市川崎区駅前本町<br>12番1 川崎駅前<br>タワー・リパーク20階 |
| 従 業 員   | 2,100 名                    |                      |                                            |
| 生 産 品 目 | アナログ・パワー、MCU、リニアイメージセンサ など |                      | —                                          |

… 半導体を作る、未来を創る ジャパンセミコンダクター …

## □社長の環境方針



2025年 6月 27日  
取締役社長 菅原 毅

### ご挨拶

当社は、2箇所の製造拠点をもち、岩手事業所は奥羽、北上の両山系と北上川、大分事業所は高尾山、大野川といった美しい自然に恵まれた土地に位置しており、この豊かな環境に配慮することが私たちの使命であると考えます。

両事業所が地域に根ざし、地元の皆様との協調・連帯を図ると共に、SDGs※1を念頭に置き、調達から製造・廃棄に至る全ての事業プロセスにおいてもライフサイクルの視点に立って環境を意識した企業経営を実践し、半導体製品の提供を通じて社会に貢献することを目指します。

※1 SDGs : Sustainable Development Goals  
(持続可能な開発目標)

## お約束します

### 1. 倫理観と継続性

- 1) 当社の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を遵守し、コンプライアンスの徹底を図ります。
- 2) 環境活動レベル及び環境パフォーマンスの向上を図るため、監査と活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、環境経営の効果的な運用を推進します。

### 2. 実行

全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、気候変動並びに、循環経済への対応、生態系への配慮など環境負荷の低減に関する環境目標を設定し、全員で汚染の予防に努め積極的な環境施策を展開します。

- 1) 気候変動への対応のため、カーボンニュートラルに向けた取り組みにより温室効果ガスの排出を抑制します。
- 2) 循環経済への対応のため、生産性の向上、廃棄物の総排出量削減に向けた活動により資源の有効活用を推進します。
- 3) 生態系への配慮のため、使用する化学物質の適正な管理と削減、水資源並びに生物多様性の保全の取り組みを行います。
- 4) 法令遵守のため、常に最新の情報を入手し管理の強化を図ります。
- 5) ステークホルダーとの相互理解促進のため、コミュニケーションや地域・社会との連携に取り組めます。
- 6) 環境に配慮した企業活動の実践のため、自ら進んで行動する従業員を育成します。

この環境方針を社内外に開示するとともに、本組織で働く全ての人々に方針を周知し、方針に沿った企業活動を推進します。

## □カーボンニュートラルに関する方針

東芝グループ方針に沿い、2050年度までにカーボンニュートラルを実現

### 《中期方針》

2030年度までに自社事業活動  
(電力由来、自社排出)によるGHGを  
100%削減

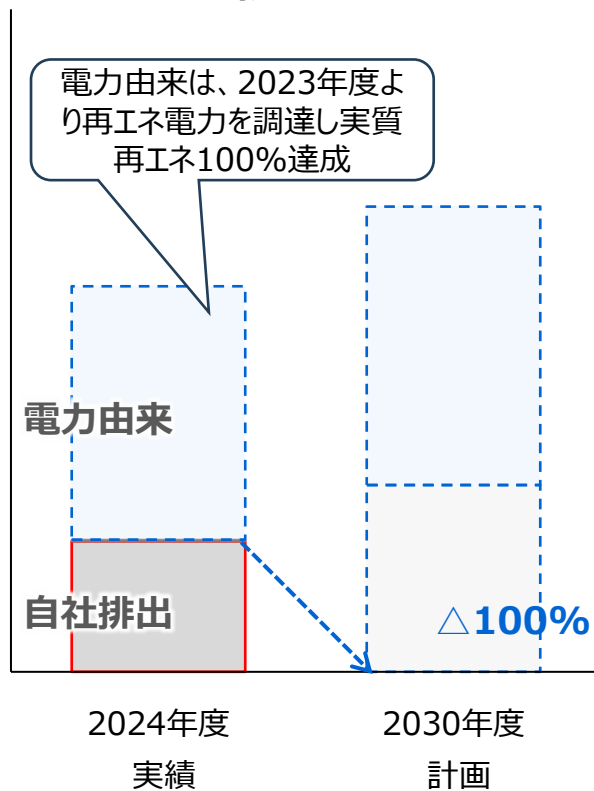
### 《2024年活動》

- ・自然エネルギー発電設備の導入
- ・高効率の小型貫流ボイラーへの更新

### 《2025年度以降の取組》

- ・電力由来GHG
  - (1) 省エネルギーの促進
  - (2) 自然エネルギー発電設備の導入
- ・自社排出GHG
  - (1) プロセスガス、燃料ガス削減施策の実行
  - (2) 温室効果が低いガスへの代替化検討
  - (3) プロセスガスの除害装置を導入

### GHG排出量のイメージ



※ GHG : Greenhouse Gas (温室効果ガス)

## □自然エネルギー発電設備を稼働

当社では東芝グループの国内半導体製造拠点として、初めて2024年度にオンサイトPPAモデルを大分事業所に導入し、岩手事業所が2025年5月より、稼働を開始しました。当社全体では、年間で使用する電力の1.8%を太陽光発電で補う見込みです。2023年度から導入している再エネ電力購入による使用電力の実質再エネ100%化と太陽光発電を組み合わせ、再エネ手段のベストミックスを図っていきます。



岩手事業所 太陽光発電

年間発電量:1,040MWh/年の見込み

※PPA : Power Purchase Agreement (電力販売契約) の略。オンサイトPPAモデルは、発電事業者が電力需要家の敷地や屋根等のスペースを利用して発電設備を設置し、直接再エネ電力を販売。

## □燃料ガス削減施策の取組

### 《取組内容》

半導体を製造する建物(クリーンルーム)は、温湿度管理のためにボイラーの蒸気を使用している。今回、水管ボイラーから高効率の還流ボイラーへ更新し、液化天然ガス・都市ガスの使用量およびCO2排出量を抑制しました。

効果:ガスの削減量(CO2排出抑制量)

岩手事業所:液化天然ガス▲11t/年(▲30t-CO2/年)

大分事業所:都市ガス ▲267,900m3/年(▲632t-CO2/年)



## □プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律への対応

当社の廃プラスチック屑は、全体で175.3t排出しています。

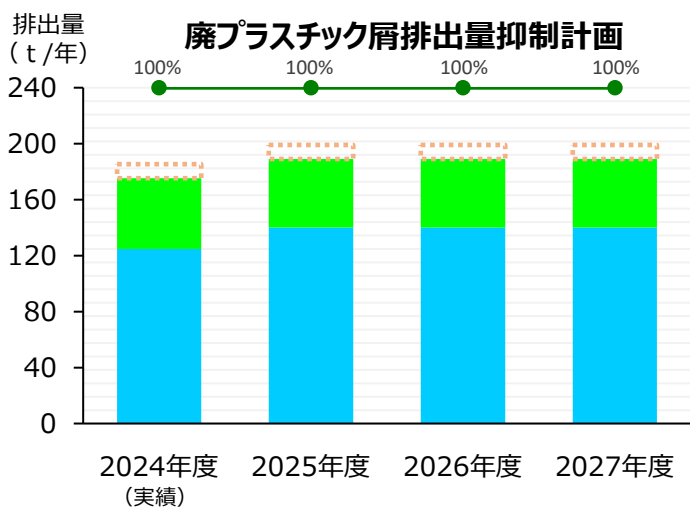
排出された廃プラスチック屑は、全てプラスチック原料や焼却時の燃料として有効利用されています。

引き続き、排出量の抑制に取り組めます。

《廃プラスチック排出量(2024年度)》

(t/年)

|       | 有価物<br>(原料又は燃料) | 廃棄物<br>(燃料又は原料) | 合 計   |
|-------|-----------------|-----------------|-------|
| 岩手事業所 | 4.9             | 45.6            | 50.5  |
| 大分事業所 | 53.5            | 71.3            | 124.8 |
| 合 計   | 58.4            | 116.9           | 175.3 |



岩手事業所 大分事業所 抑制量 有効利用率

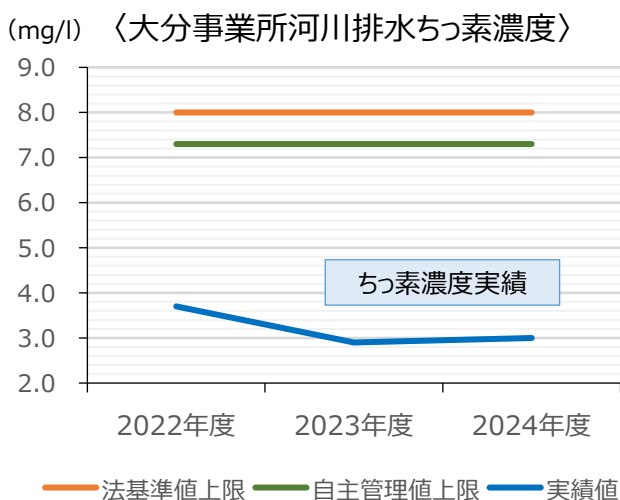
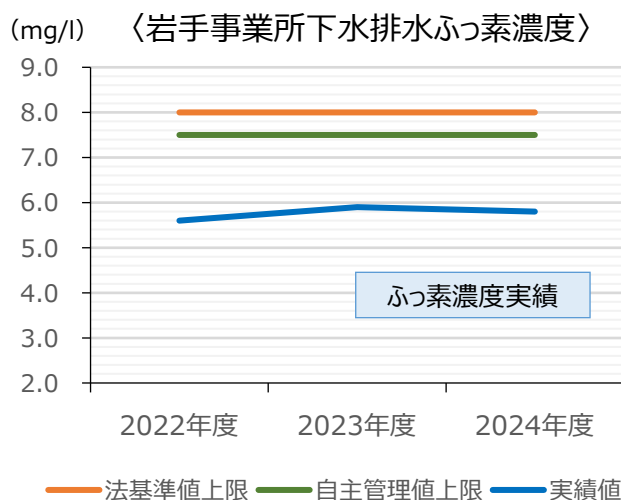
### 《主な抑制施策》

- 1) ウェーハケース等容器の通い化
- 2) 購入品等の梱包材の削減
- 3) 容器や梱包材のリユース
- 4) 生産効率向上 等



## □法令の遵守（工場排水水質の管理）

### 法令の基準値より厳しい自主管理値の設定と管理



### 《岩手・大分両事業所の排水に係る法令》

- ・岩手事業所の排水は下水道へ放流しており、下水道法に基づく排水基準が適用されています。
- ・大分事業所の排水は近隣の河川へ放流しており、瀬戸内法よりも厳しい大分市公害防止協定値が適用されています。

### 《法令の排水基準値を遵守するための取組》

- ・法令遵守の一環として、法定基準よりも厳しい自主管理値を設定し、排水管理を実施しています。
- ・製造工程からの排水は排水処理装置で処理され、水質モニタリング装置により24時間体制で監視を行い、基準の確実な遵守を図っています。
- ・水質基準を逸脱する可能性が認められた場合には、法定基準に達する前に速やかに是正措置を講じる運用体制を整備しています。

## □環境マネジメントシステム

### 環境を第一に考え、継続的に改善する仕組みを運用

- ◆ISO14001 第三者機関認証  
ISO14001:2015 規格での認証を取得しています。



- ◆環境経営内部監査  
システム監査、遵法監査、現場監査により環境問題の発生を未然に防ぎます。

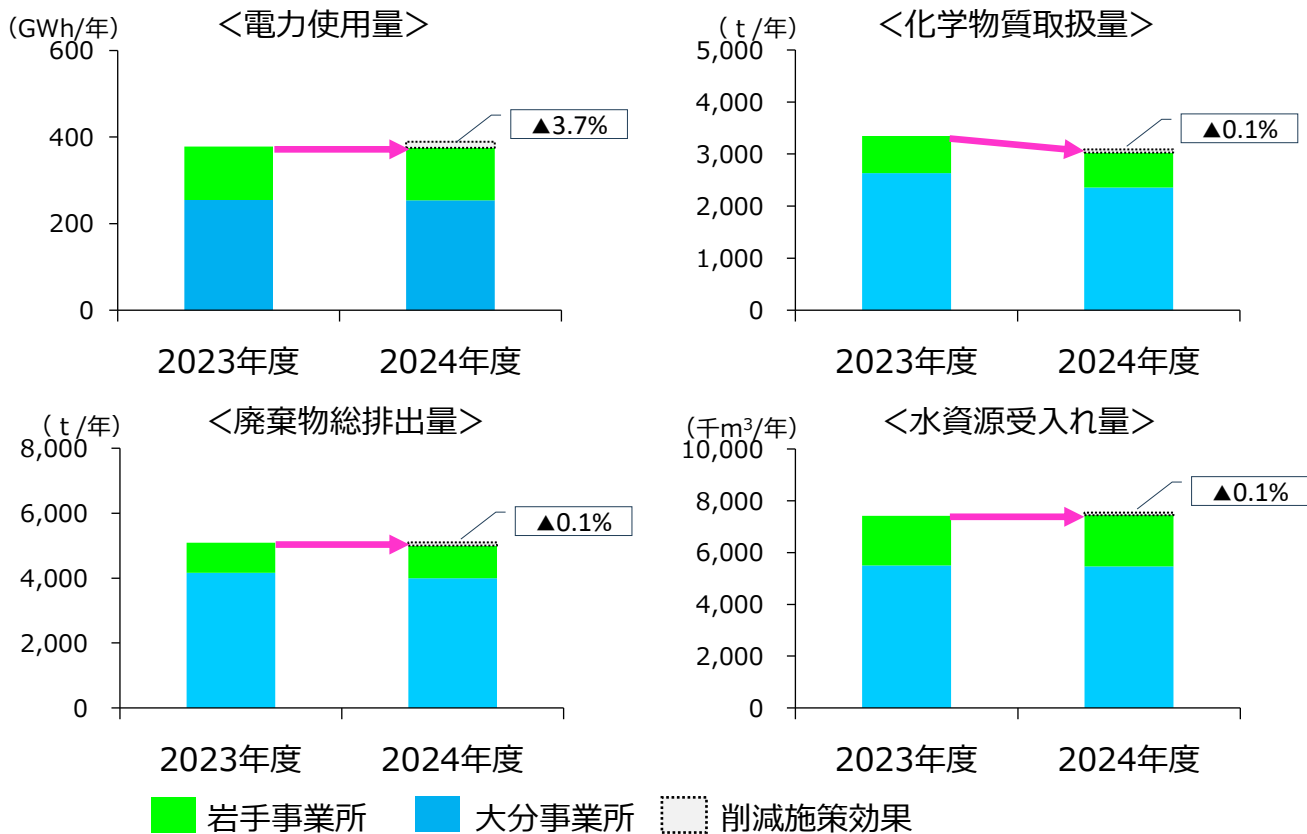


#### 〈3全3現主義〉

- 3全  
全域の全設備を  
全員で管理
- 3現  
現場で現物を見て  
現実を管理

## 事業所の環境負荷状況

### 使用量・排出量共に最小限となるための削減施策を実行



## 従業員の環境教育

### 職能や専門性に応じたカリキュラムで教育

| 区分    | 教育名        | 対象者          | 内容                         |
|-------|------------|--------------|----------------------------|
| 階層別教育 | 環境一般教育     | 全従業員(常駐会社含む) | 環境目的・目標、環境法令 等(e-learning) |
|       | 新入者/転入者教育  | 新規採用者/転入者    | 地球環境問題・当工場の取組 等(集合教育)      |
| 職能別教育 | 特定従業員教育    | 特定業務従事者      | 特定作業の手順を逸脱した場合の環境影響 等      |
|       | 内部環境監査員教育  | 内部環境監査員      | 監査員の役割と責任、監査手順 等           |
|       | 環境部門リーダー教育 | 新規の環境部門リーダー  | 環境マネジメントシステム、リーダーの役割 等     |

#### 4-1. 責任と権限（管理者としての役割）

環境保全活動の率先垂範をお願いします。また、従業員の環境意識向上に努め、メツ

- 方針等の周知、環境教育の実施
- 環境負荷低減の推進
- 省エネ活動の推進
- 各種監査対応
- 環境活動への積極的参加
- 法令等の順守

#### 3-2. 環境関係法令

（岩手）（大分）該当法令については各事業所の環境法令

##### ★フロン排出抑制法

目的：オゾン層を破壊し地球温暖化に深刻な影響をもたらすフロン類を適切に管理し、大気中への排出を抑制しています。

設備を保有・使用している部門は、点検等による適正管理・回収時の運用ルール

1. 「管理者の判断基準」の遵守（管理者）
2. フロン類管理量の報告（管理者）
3. 整備時におけるフロン類の充填及び回収の委託（管理者、整備者）
4. 第一種特定製品の廃棄時等に取組む内容（廃棄等実施者）

#### 3-3. 環境関係法令（省エネ法の改正情報）

★旧名称：「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」  
★新名称：「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」（通称：改正省エネ法） 令和5年4月1日施行

◆改正省エネ法の主な見直しポイント

再エネ！

- ① 全てのエネルギーの使用の合理化（エネルギーの定義変更）  
⇒改正後は、太陽光や風力発電などの電気も無駄に出来ない  
※移行：化石エネルギー（燃料、熱、電気）⇒改正後：化石エネルギー⇒非化石エネルギー（太陽光、風力、水力など）
- ② 非化石エネルギーへの転換  
⇒改正後は、非化石エネルギーに関する定期報告書、中長期計画書の作成が必要  
※移行：化石燃料 ⇒ 改正後：非化石エネルギーの使用割合向上、中長期計画作成、輸入エネルギーの非化石化
- ③ 電気の需要の最適化  
⇒再エネは天候などで発電量の変動が大きいので発電量に応じて多く使う時間帯を変える  
※最適化（デマンドレスポンス）⇒再エネ発電量が多い→夜より昼使おう 再エネ発電量が少ない→夜より昼使おう

省エネ活動することで『地球温暖化防止』『エネルギー資源の有効利用』『コスト削減』にも繋がります。

テキストを作成し、全従業員に教育を実施



## □ 事故・緊急時を想定した訓練の実施 当社従業員の他、ドライバーや常駐会社も訓練に参加



液漏れ想定訓練



夜間訓練

## □ 社内環境広報紙の定期発行 環境活動の状況を従業員に毎月伝え、各種情報を共有



## □ 従業員の環境意識向上活動 一人ひとりの意識が企業を支える

### 〈岩手事業所〉 空き缶、配線屑回収



家庭の空き缶や配線屑を回収し、売却益を寄付し社会に貢献

### リサイクル施設見学



リサイクルの様子を見学し、分別や5Rの大切さを学ぶ

### 〈大分事業所〉 風力発電施設の省エネ見学会



部門のエネルギー使用の抑制の意識向上を図る

### 構内フラワーギフト



行政から頂いた花の苗をプランターに植栽し、各職場で育成



## □ 環境社会貢献活動

地域との「ふれあい」を大切にし、社会に貢献する環境活動を実践

### ペットボトルキャップの寄付



岩手事業所139kgを近隣企業に持込み、途上国にワクチン寄付

### ボランティア清掃



岩手事業所：従業員680名による市街地清掃活動を実施

### 半導体出前授業



岩手事業所：近隣小学校の生徒に半導体出前授業を実施

### チャリティフードの寄付



大分事業所：従業員から集めた食品等619点を寄付

### 国道花壇の花植え



大分事業所：松岡自治会と国道花壇の花植えを実施

### 半導体出前授業



大分事業所：近隣中学校へ出向き、半導体環境授業を実施

## □ 近年の表彰

### 2024年度「花いっぱいコンクール」優秀賞受賞



岩手事業所：従業員が管理している花壇において、優秀賞受賞

2024年度

「環境保全優良従業員表彰 受賞」  
「北上市花いっぱいコンクール 優秀賞」

(岩手事業所)

2023年度

「環境保全優良従業員表彰 受賞」  
「北上市花いっぱいコンクール 優秀賞」

(岩手事業所)

2022年度

「省エネ大賞 会長賞受賞」  
「ごみ減量・リサイクル推進に関する優秀団体表彰受賞」  
(大分事業所)